

おおたけ

とうち

# 大竹 藤知

明治14年（1881）～昭和28年（1953）

渥美郡磯辺村（現 市内草間町）出身



大竹藤知は、若くして地方政界に出て、36歳で高師村長となり、その後、愛知県町村長会長など数々の要職を務め公共事業に尽力し、昭和22年（1947）、戦後初の市長選挙により豊橋市長となった。

藤知の最大の責務は、戦災で廃墟と化した豊橋の戦災復興土地地区画整理事業であった。市街復興をめざましい速さで進め、昭和23年（1948）には市立桜ヶ岡病院・豊橋野球場、昭和24年（1949）には市営競輪場・陸上競技場等を開設し、翌年3月には日本初の民衆駅「豊橋駅」が完成を迎えた。

戦災復興事業を推進した  
戦後初の公選市長